



令和5年度が始まりました。4月12日(水)第37回入学式で新入生120名を迎え、2年生112名、3年生94名、太宰府東中326名での船出です。「始まり」から、私たちは多くの刺激を感じることができます。そして、その刺激から勇気や挑戦心が心の底からわいてきます。私は今から10年ほど前、石森延男(いしもりのぶお)の「この新鮮な気持ちを」という作品に出会いました(右資料)。今から50年ほど前の中学校国語の教科書に載っていたものようです。4月という節目に読み返すたび、毎日見ているはずの学校での景色が、なぜか違って見えてきます。そして、太宰府東中に来た初めての日に「さあ、この場所で精いっぱいがんばろう」と決意したときのことを鮮明に思い出します。新しい1年が始まったいい機会。何事もポジティブに感じたり考えたりして、これから経験するたくさんのことを楽しんでほしいと思います。その一つ一つの経験が自分の可能性を必ず広げていきますから。

さて、1年生には入学式で、2年生と3年生には始業式で「目指してほしい姿」について話しました。1つ目は「なりたい自分」を自分で決めて成長しようということ。2つ目はどんな経験も素晴らしい経験。どんなこともポジティブに取り組もうということ。そして、3つ目は自分の考えや思いを自分から発信していこうということ。一人ひとりが違うからこそ、周りから得た考えや思いから、自分の世界が広く深くなっていくということ。だからこそ、仲間とのつながりを大切にしてほしいです。これから経験するたくさんことは、自分の可能性を無限に広げていくはずで、新しい自分を自分で発見することを楽しんでほしいです。

この新鮮な気持ちを

石森 延男

春になった。

空には、白い雲が光って、羊の群れのように浮かんでいる。山すその林が、うす緑になって深呼吸している。

そうして、みんなは、中学生になった。

校舎も、教室も、机も、黒板も、窓ガラスも、友達の顔も一何を見ても、新鮮な気持ちがするだろう。

なんでも新鮮に見える今のこの目を、大事にしていこう。

そうして、何かを発見するような目を、育てていこう。

泉から水がわく、あの新鮮さを、心に持ち続けたいものだ。

なんでも見慣れてしまっではおしまいだ。

「見慣れるなんて、そんなはずはないよ。」

こう言いたいところだが、なかなかそうはいかないものだ。

よくものを見ているようで、実は見ていないことが多いからだ。

あとで思い出してみようとしても、

少しも思い出せないことだってある。

心を働かせてものを見るようにしたいものだ。

時には、記憶にとどめ、

時には、想像の翼を伸ばして、ものを見るようにしよう。

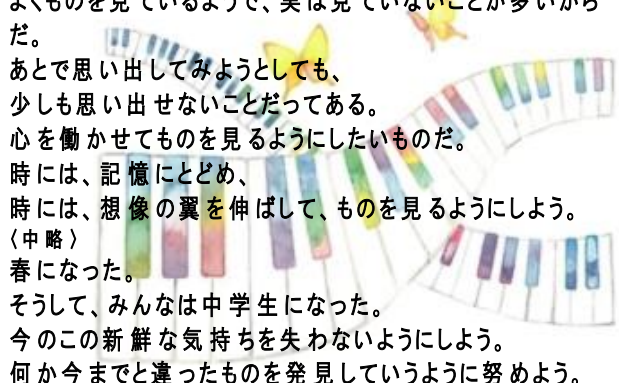
(中略)

春になった。

そうして、みんなは中学生になった。

今のこの新鮮な気持ちを失わないようにしよう。

何か今までと違ったものを発見するように努めよう。



「パワーアップ」「ステップアップ」した太宰府東中が目につかぶ第37期生徒会スローガン

4月10日、校門すぐの校舎の壁に「打破∞深い繋がり～気づく力と支え合う力」という生徒会スローガンが掲げられました。このスローガンのもと太宰府東中が大きく成長していくかと思うだけで心が躍ります。入学式翌日の生徒会オリエンテーションでの2、3年生の躍動感あふれる姿、1年生の先輩から学ぼうとする姿から、太宰府東中全員でスローガンに向かって前進するのだという力強さを感じました。これまで以上に互いを高め合い、笑顔あふれる学校になると確信しました。

これまでありがとうございました！

太宰府東中のために力を尽くしてこられた6名の先生方が3月末に離任されました。愛情いっぱいの先生方からの学びを力に変え、精いっぱい頑張っってよりよい学校づくりをしていきます。6名の先生方の新しい学校でのさらなるご活躍をお祈りしています。ありがとうございました！

名前	教科等	転任先等
八尋 健次 教頭先生	保健体育	太宰府市立学業院中学校 教頭
坂井 由美子 先生	数学	太宰府市立太宰府西中学校
松永 哲也 先生	数学	太宰府市立太宰府中学校 主幹教諭
石松 諒子 先生	家庭科	糸島市立前原西中学校
近藤 綾 先生	主任主事	筑紫野市立筑山中学校
松本 新 先生	支援員	退職